

14.5  
45

貨幣論叢  
第八號

エディソン、フォード兩氏提唱の  
物品本位貨幣制度批判

大藏省理財局

(大正十二年七月)



始



14.5  
45

- 一、貨幣論議は諸家の貨幣論並貨幣政策に關する最近の科學的主張並批判の論文を紹介するを以て目的とす。
- 二、本論叢は印刷を以て筆寫に代へたるに止まり敢て之を公刊するものにあらず。
- 三、本論叢所載の論文を他の印刷物に轉載せむと希望する者は豫め本局の承認を求めらるべし。
- 四、本論叢は不定期に之を發行すべく既刊並豫定の分左の如し。

- 第一號 貨幣の本質 (大正十年六月)
- 第二號 名目的貨幣論を駁す (大正十年八月)
- 第三號 貨幣に關する最近の諸學說 (大正十年十月)
- 第四號 貨幣價值論 (大正十一年十月)
- 第五號 金本位即時恢復論 (大正十一年十月)
- 第六號 Devaluation の概念に於て (大正十一年十一月)
- 第七號 新貨幣制度としての賣貨幣の創設 (大正十二年六月)
- 第八號 物品本位貨幣制度批評 (大正十二年七月)



944385

### 序

發明王の稱あるトマス・アルヴァ・エディソン(一八四七年)と其の親友たる米國事業界の覇者ヘンリー・フォード(一八六三年)とは通貨の價值變動の太甚しきを慨し又特に收穫時に於ける穀物價格の低落より來る農業者の困窮を救濟せむことを志し從來の商業者中心の貨幣制度銀行制度に依らざる、農業を立國の礎となして穀物、棉花、鑛産物、林産物等専ら生活の絶對的必需品を本位としたる貨幣制度金融組織を樹立すべきことを主張し、其の具體的考案を世に示すところあつた。之に對して、米國經濟學者の多くは默殺したやうであるが、兎に角現代米國に於ける二大立物の主張とて一般の耳目を聳動したのである。爰に譯出したる「ボラツク」經濟研究所長キリアム・トラファント・フォスター (William F. Foster 一八七九年) の批判論 (Proceedings of the Academy of Political Science 本年一月號所載) は、エディソン、フォードの物品本位貨幣説を實際上より完膚なきまでに論難したるものであつて、謂ふ所の公平便利堅實を特徴とせる物品本位制は實行不可能であるばかりでなく、結局貨幣制度としては金本位の冠絶せるを却て證明し、且金本位は物品本位制の缺點を償うて餘ある所以を

説明したものである。

近來米國經濟界から種々なる貨幣論の簇出するは洵に壯觀には相違ないが、未だ以て深遠なる學說、卓絶なる新制度と認む可きものを見ないのである。本論叢は其價值の如何は姑く措き歐米に於ける新貨幣論、新提案の紹介をも發刊の目的として居るのであるから、敢てエディソン・フォードの物品本位説を其の反對論側から觀ることにしたのである。

### エディソン、フォード兩氏の物品本位貨幣論を

#### 批判す

トマス・エディソン (Thomas Edison) とヘンリー・フォード (Henry Ford) — 如何にも幻惑的な名前である。名前を聞いた丈でも世人の想像は異様に働かない譯には行かぬ。エディソンとフォードとは洵に奇策縦横な奇想天外な丸でアラディンみたいな、不可思議千萬な人間である。何事にあれ、此の二人の提案といへば世人は是れに注目せずには措かない。されば今二人が貨幣といふ、最も世人の興味を唆る問題に就て論ずるに至つた時、世人が拍手喝采して之を迎へたことは毫も怪むに足りない。

斯る人達が貨幣の意義を發見せんことを企て、世人の注意を此の問題に向けむとてゐるのは喜ばしいことである。いつか吾人は貨幣をして一層よく其の役目を盡くさせるやうな工夫をするだらう、けれども吾人にして同時に、貨幣が今日世界の事業を援助し又妨害する微妙な作用を普ねく世人に理解せしめない限りは、一層よく制度を完成することは出来ぬであらうし、又出来たとしても之を維持することは

不可能であらう。斯る理解にして缺如したならば、歐洲が貨幣上の混亂に陥り貨幣上の混亂が齎す災害に遭遇する危険は、之を避くるに由ないのである。

エディンソン氏とフォード氏は共に久しい以前から金本位に不信を懷き、弗貨購買力の動搖を憂慮し、農業家の資金借入を容易にせんことに腐心し、「農業を銀行制度より分離せん」とし、而して農産品の投機を廢止せんことに熱心であつた。今や彼等は、此の宿年の冀望を達する最も有效な且便利な方法は新しく且ヨリ良い貨幣を制定するに在るといふことを信するに至つた。

フォード氏の設定せんと欲する貨幣が精確に如何なるものであるかは全く明瞭だとは言はれないが、併し或點に於ては彼は疑の餘地の無い程明かに所信を述べて居る。彼は金本位、不安定貨幣、利子、農産品投機などを廢止せんとするのである。而して此の目的を達する爲めには政府が農産品を擔保に取り無利子で農業家に直接資金を貸付けなければならぬ。さて是等の點はエディンソン氏が概説した計畫の主要な部分である。而してエディンソン氏は所謂物品本位貨幣 (commodity money) なるもの多くの擁護者中の錚々たるものであるから、以下エディンソン案の主旨を正確に理解すれば、此の問題は明瞭になることと思ふ。

此の案に従へば、先づ第一に吾人は倉庫を必要とする。而してこれは政府によつて建てられ、且政府によつて所有され管理さるべきものとする。倉庫建設費は租税によつて之を調達する。是等の倉庫に農業家は——又は他の何人でも宜しいが——米國の土地に於て作られた基礎的物資ベーシックス、コモディティを持ち來り、之を保證として資金の借入を行ふのである。例へば一農業家がニュー・オルレアンスの聯邦倉庫へ棉花を持參したとする。政府役員は其の棉花の等級を定め、彼に二枚の紙片を渡す。一は擔保證券 (mortgage certificate) で他は衡平證券 (equity certificate) である。

擔保證券は農業家が之れを任意の國立銀行へ持參して斯く擔保に供した商品の過去二十五箇年間の平均價額の五〇%までの聯邦準備券を受取る。斯くして農業家は貨幣の使用に些少の費用をも要せずして貨幣の借入を爲すことを得ることになる。而も彼は尙ほ棉花を所有して居るのである。彼の衡平證券は所有を證據立てるものである。これは質札に似て居る。彼は之れを保有しやうが賣却しやうが借入の擔保として銀行に提出しやうが差支へない。彼又は之を買受けた人は一ケ年内ならば何時にても棉花を擔保に借入れた貨幣と同じ額を添へて棉花を受取るのである。

若し棉花が一ケ年内に引取られないときは、政府は之を賣却して貸付けた貨幣を回収しなければならぬ。これは貨物の堆積を防ぎ貨幣が自己決濟的セルフ・ケレシヤンなものなることを確實にする爲めである。農業家が借入金を償還し、若は政府が棉花を賣却するや否や、貸付けられた額に等しい貨幣が消滅することになる。是れがエディソンの物品本位貨幣案の要旨である。

その獨特な目的と方法とは詳細の考察に値する。が第一に大抵の人が氣の著くことは、此の計畫は租税と政府役員との増加を要求し、國內産業に對する政府の管理の大擴張を要求するものだといふことである。最も顯著なる政治上の點のみに就いて考察して見ても解かる。若しも無利子で資金を借入れる特權が事實恩典であつて唯若干種の生産者にのみ與へらるゝものであり、其の名簿が時々改訂されるものであるとするならば、何人か此の特別な被恩典者を決定するものがなければならぬ。而して此の決定者が議會であつても、又黨派的な任免により進退する聯邦倉庫管理官であつても、何れにしても自由資金を何人が受けるかといふ問題は明かに政治界に残される問題であり、従つて選舉日が近づく毎に重大なものとなるのである。同時に又聯邦政府の保管に係る要求なき貨物を市場に投げ出すことは、非常な不

況のときに生ずるものであるが、是れも政府役員を取計るべきことである。而も最近に於ける政府の過剩軍需品賣却に際しての經驗より考へれば、擔保農産品保管者が之を市場に提供せんとする場合、此の提供が物價に影響するときは——これは常に起ることであるが——之を妨害せん爲めに政治上の壓迫が行はれるであらうことは疑ひの餘地がない。のみならず、例へばどの袋の砂糖棉花羊毛が米國の土地に出來たものであるか、又どの品が既に政府貸付の擔保として使用されたことのあるものであるか、何れの品が一ケ年間貯藏され従つて賣却されねばならぬものであるか、などいふことを正確に決定する爲めには、隨分澤山の政府役員を置かなければならぬ。大抵の人は單に品物を検査して見た丈では、それが何處から來たか、又何度貯藏され且引受られたかを知ることが出來ない。而も品物の堆積を妨げせん爲めには政府役員は是非とも此の點を明かに知らなければならぬのである。

## 二

此の故に、大抵の人は、本計畫の目的とする所に對し如何に熱心に賛成して居るとは言へ、その政治的關係に就ては懸念を抱かすには居ない。世界戰爭中に於ては政府の事業界管理は、その濫費と不手際にも拘らず、寛大視さるべき己むを得ぬ弊害

だど考へられた。それは平時の産業組織では戦争遂行時の事業には間に合はないからである。此の結果経済上の大損失は避くべからざるものであつた。併し戦争が進むにつれ政府の事業界管理の無能を證する事實が多くなつたので、實業の政府管理を尠くし政務を一層實業的にする〔less government in business, and more business in government〕ことに對する要求が津々浦々に起つた。新しい永久的な聯邦吏員を設け、産業を政府の管理に移さんとする計畫に就ては之に反對すべき理由があるのである。併し單に此の推定理由のみを以てしては、計畫の個々の目的の周到な研究を阻止するには足りない。エディンソン氏は第一に彼の物品本位貨幣が金本位貨幣よりも健全であることを主張し、何故なれば、倉庫の中には吾人が喰ひ纏ひ且生きる爲めに消費しなければならぬ實際の富が政府の保管の下に存在するからである』と言つて居る。氏は又主張して、最初は穀物とか棉花とか羊毛とか米とか、大豆とか脂肪とか、麻とか、煙草とかの少數の基礎的物資を受納すべきであると言ひ、製造品は此の目的を満たすには足らぬものとし、品目の選擇には細心の注意を拂はなければならぬことを説いて居る。

さて、若し貨幣發行の擔保となる特殊な物品が貨幣保有者に對して何ものかを意

味するとすれば、それは該貨幣が該物品によつて兌換されるといふことでなければならぬ。小麥を擔保に發行した弗貨を保有する人が若し該小麥に對して何等の請求權も有たないとするれば、それが何處に安全に貯藏されて居らうが、そんなことを知つたところで一向面白くもないであらう。例へば露西亞現今の通貨の有様を考へて見給へ。露西亞には今日尙ほ莫大な富がある。が併し留紙幣は特定の量の金乃至特定の量の何物かにも對する法律上の請求權でない爲めに、殆ど無價値に等しいものとなつて仕舞つてゐる。貨幣が富を表示するといふのみでは十分でないのである。

『私の解決法は』と多藝な發明王は言ふ『金本位を廢止しようとするに在る』彼は政府によつて生産を代表する(Represent)通貨を發行しようといふのである。此の解決法は恐らくは提案者の名ほど世の人氣を博するには至るまいと思はれる。何となれば、若し硬貨若くは紙幣が、單にそれが代表するもののみ限られるとすれば、太陽のエネルギーは太平洋中の魚介の見積數を表示するやうなことにもなるであらうから。代表といふことがあらゆる種類の財貨と引換に自由に受領せらるべき物品に要求次第兌換せらるべきことを意味するものでない以上は、物品本位は必ずしも貨

幣の價值を保證するものと言ふことは出来ない。まことに歴史は人類が其の不換紙幣の量を制限し其の價值を維持せん爲めに行つた果敢ない努力の長々しい物語であり又現下の歐洲貨幣の頽廢は單に其の一章たるにすぎぬのである。

さて若し煙草で満たされた倉庫が、エディンソンの言ふが如く、是等を擔保として發行された紙幣の確實性を保證すべき究極の基礎であるとすれば、是等紙幣は煙草で兌換せられねばならぬ。是れは實際に於ては聯邦煙草紙幣である。此の筆法で行くと、聯邦亞麻紙幣、聯邦鹹魚紙幣などが出來てくる。のみならず、煙草の等級が細分され、ばそれ丈異つた種類の煙草紙幣がなければならぬ。交換に貨幣を使用せんとする人は、貯藏に引受けられた總ての生産品の市場價值が確定貸付價值に接近するとき最近の市場相場表を手許に備へて置いて以て諸種の弗貨の相對的價值を見積らなければならぬ。各人は、彼がA號煙製紙幣を有するか又はX號干鱈紙幣を有するかを周到に注意しなければならぬ。若し有煙炭鑛夫の同盟罷業が起つたならば彼は有煙炭紙幣を蓄積するであらう。若し棉花が暴落すれば、彼は棉花紙幣を手放さんと欲するであらう。成程、此場合には、我國の出征軍人が佛國に於てポルドー法<sup>ポラ</sup>とかサンナザール法<sup>ソラ</sup>とかいふもので勘定にしなければならなかつたやう

に、ヤングスタウン骸炭弗とかラムフォード、フォールス製紙バルブ弗などといふもので勘定する氣遣ひはない、何となれば此のエディンソンの計畫に従へば總て弗貨が中央政府によつて發行されるものだから。けれども、若し紙幣の價值が其の發行の保證となつた特殊な生産品によつて決まるものとすれば、此の貨幣は洵に信頼し難いもので又洵に紛らはしいものと謂はなければならぬ。

併し、假に諸種の貯藏生産品が、數多の別々の紙幣の保證として類別されないうで、倉庫中の全體の富が紙幣全體の背後に立つものとして見る。これでは兌換の問題が解決しない。若し物品紙幣が百萬弗發行されて居るものとすれば、一枚の一弗紙幣が貯藏された富の百萬分の一によつて兌換されるといふことは一體何を意味することになるのか。保有者の得べき部分は何から成つて居て、如何にして彼は之を得而して之を如何に處分するか。それは兎に角、物品はすべて抵當に入れられたものであり且政府は之を個々の所有者に最後に配付するまで保管する義務あるものなれば、是等物品の一部分を要求する權利が彼に有るだらうか。

翻つて金を保證とした弗貨の簡單さと確實さとを考へて見るがよい。紙幣の金兌換といふことが何を意味するかは世界中誰でも皆チャンと知つて居る。全世界

の人は是れと引換に金を受取るのだ。其の價值はすべての市場で知られて居る。それは容易に吟味され、貯藏され、保存され、分割され、輸送される。のみならず、金準備なるものがあつて、此の兌換といふ唯一目的の爲めに維持され、要求次第與へられるのである。

が併し、エディソン氏の説明によれば、氏の計畫では聯邦煙草紙幣とか聯邦魚介紙幣とかいふやうなものを作らうといふのではないらしい。事實決して新しい貨幣などは作らないのである。農夫が聯邦機關に預け入れたものが何であつても、彼はその抵當證券を國立銀行へ持参し、而して此處で之を聯邦準備紙幣と引換へて貰ふのである。だから他のすべての聯邦準備紙幣と少しも異なるものではない。

三

然らば、金本位貨幣よりも健實な物品本位貨幣の提案として世論を沸騰せしめた此のエディソン計畫がこれだけのものならば、此點は吹けば飛ぶやうな計畫である。エディソン貨幣は金本位貨幣以上に健實なものではない、何となれば、それも一つの金本位貨幣だから。エディソン計畫に基いて發行されたすべての聯邦準備紙幣は他のすべての合衆國弗貨幣と同じく、二五八「グリーン」の、金十分の九の純分、二三二二「グレ

ーン」の純金であるが、是れは何も農夫が大麥、豆、其他のものを交付したからではなくて、聯邦準備制度がすべての合衆國貨幣を兌換要求の限度まで金に兌換することを保證するに足る金を有するからである。農夫が預け入れたものが小麥だらうが木の實だらうが、大麥の袋だらうが、空の袋だらうが、それによつて借入れた貨幣の購買力には決して變りはないのである。エディソン氏は貯へらるべき生産品の選擇を恐ろしく氣にして居るが、紙幣の兌換性が十分な金準備によつて保證されて居る以上は何だつて一向差支ない譯である。『金本位貨幣では十分ではない』とエディソン氏は聲明する。『それはゴマ化し物だ』茲に於て、氏は農業者聯邦準備紙幣(Farmers' Federal Reserve Note)を發行して其の兌換性を既存の金準備によつて保證すべきことを提唱し、而して此の紙幣は金本位貨幣よりも健全なものだと力説する。

『政府は既に物品本位貨幣を造りつゝあるではないか』とエディソン氏は反問する。『數十億の貨幣は今日商業手形を保證として發行されて居る。商業手形は喰ふことも着ることも出來ぬ。これは一體何か』。

吾人は答へて言ふ、これは決して物品貨幣ではないと。若し假にエディソン氏が蓄音機を擔保に金を借りようとし、而して若し聯邦準備制度の一株主銀行が該蓄音機



に對する倉庫證券を一準備銀行に提示して引換に聯邦準備紙幣を受取ることをな  
らば、その受取るころのものは金を基礎とした貨幣である。各々の貨幣の表面に  
「蓄音機弗など印刷する謂はれは毫もないのだ。是等の弗貨を所有した人に取つ  
てはエディソン氏が其の倉庫に何を有して居らうが、蓄音機市場又は貨幣を拂出し  
た銀行に何事が起らうが、そんな事は一向意に介する所でない。弗紙幣の價值は蓄  
音機によつて決定されるものではなくて金によつて決定されるものだからである。  
中途で悪くなるバナナの荷や、忽ち流行後れになりさうな靴や、走らなくなる自動車  
などを基礎とした」エディソン氏の用語法を借りれば——準備紙幣が今や發行され  
て居るかも知れない。けれども是等の立ち入つた事は紙幣の保有者を惱さない。  
何故なれば是等紙幣はバナナや靴や、自動車やで支拂はれるものでなく、金で支拂は  
れるのであるから。要するに、是等は物品本位貨幣ではない。金本位貨幣である。

エディソン氏の言ふ所に據れば、此の貨幣は之を少々許り發行しても『それだけ國  
内の貨幣を改善し、金の負擔を幾分軽くする』のださうであるが、併し事實は反對に金  
の負擔はそれだけ重くなるのである。而して若し金準備が此の追加負擔を支持す  
るに足りなくなれば、次の二途の中何れか行はれる。即ち更に金を獲得する道が

あれば之を手に入れるか、若くは合衆國の弗貨が其の金の錨を失ひ、爲めに麻や留と  
連れ立つて不換紙幣といふ際涯知れぬ大海に漂ひ出ることになるかである。若し  
第一の途が行はれれば、エディソン紙幣は金本位紙幣以上に健實なものではなく、結  
局金本位紙幣になる。若し第二の途が行はれれば、エディソン紙幣は金本位紙幣よ  
りも不健全な下落紙幣となつて仕舞ふ。

エディソン氏の志すところは、常に金本位貨幣よりも健全であるのみならず又其  
の相對的價值即ち其の購買力に於て絶対に安定な貨幣を作らんとするに在る。此  
の第二の目的は實に最も重要なものだ。若しもエディソン氏にして年百年中其の類  
交換價值を變じない貨幣單位を世界に供することが出来るならば、是に由て氏が人  
に貢獻するところは、氏の既往の全功績にも優して大なるものであらう。併し此の  
物品貨幣は、今述べたやうに、金本位弗貨である。而して金本位弗貨は吾人が幾度か  
苦い經驗によつて教へられたやうに、其の購買力の變動が甚しいものである。一と  
たびエディソン紙幣が流通に付せられると、之は他の聯邦準備紙幣と擇ぶところがな  
い。此の故に物品本位貨幣をして金本位貨幣以上安定な價值を有たせることは出  
來ないのである。

のみならず、聯邦準備紙幣は、それが如何にして生じたものにせよ、小切手に使用させる銀行預金の量に比したならば、物價決定要素中のホンの一小部分たるにすぎぬものである。交換の媒介具を要する總ての取引の約九割近くは銀行小切手によつて行はれるものである以上、銀行小切手を無視した弗貨安定策は問題の大分を無視するものと謂はねばならない。『心配は無用』とエディソン氏は曰ふ。『一度に一事。第一歩として貨幣そのものを絶対に鞏固にしなければならぬ。信用問題はそれからのことだ。これは大きな問題である。私は今のところ未だ此の問題に就ては別に何も考へて居ない』。エディソン氏が信用問題に就て考へて居らうが何と考へても居るまいが、それは御勝手だけれども、銀行信用が氏の新紙幣に及ぼす影響だけは一瞬時と雖も無視して戴く譯には參らぬ。氏の新紙幣の價値は物價水準と共に流通々貨のあらゆる増減と流通銀行信用のあらゆる増減とにより同時同刻に影響されるものである。氏は恐らくは『現行の制度に些少の動搖をも與へずして小規模な試験を行ふ』ことは不可能であらう。貯水池の一小部分の水を利用して試験を行ひ、而も全體の水準に何の影響をも與へず置くことは到底出来ない相談であらう。銀行信用を無視し乍ら通貨そのものを第一に鞏固にし、以て一般物價水準の平靜を

保つといふのも、是れと同じく先づ出来ない相談であらう。

が併し、實驗と稱せらるゝ所のものは最後に金本位を廢止する上の一步と考へられて居るのであらう。新貨幣は最後には金をして他の總ての物品と同様な取扱を受けしむるに至るべしと思惟されて居る。故に此のエディソン計畫を十分に論ずる爲めには、總ての金準備が無くなつた時に此の計畫が貨幣價値の安定者としての役目を盡くし得るものなるか否かを考察して見なければならぬ。

エディソン氏曰く『地球上の生産物の相對的價値は一定不易のものに相違ないから基礎的物以外何物をも代表しない貨幣單位は、同様に一定不易であらう。即ち其の相對的價値は變化動搖しないであらう。吾人が喰ひ又は纏ふところのもの、眞の相對的價値は上昇もしなければ下降もしない、又しても極微少なものに過ぎない。變化するのは貨幣の購買力である』。

然るに他の一節に於ては氏は貨幣價値は變化するものではないと斷定して居る。曰く『採金鑛夫が其の産出物品を提供して十分な代價を得るのに、農夫が等價を得むと努めても彼の産出物は供給過多と價格引下とに遭遇しなければならぬ』と。是れは謬見である。農夫と採金夫とは全く同じ意味に於て其の生産品に對して十分な

代價を受けるのである。各々賣却當時に於ける彼の生産品の十分な交換價值を得る。他の物品の價值が上昇すれば金の價值は下降し、反對に金の價值が上昇すれば他の物品の價值は下降するのである。凡そ物—金をも含めて—の價值は需要供給の力に支配される。何物と雖も其の購買力の一定不易なるものはない。「デアポ—ン、インデペンデント」誌が『需要供給の法則は金には關係しない』と言つたのも、矢張り同一迷想に欺かれたものと謂ふべきである。

#### 四

人若し己の貨幣論を斯かる根本的に誤つた前提に基いて進めたならば、其の推理の道が如何に正確であるとも、必ずや途方もない結論に導かないでは居ない。されば此の前提の眞偽を問はない人が此の一見尤もらしいエディンブロード貨幣説に感心するに至ることは驚くに足りないのである。

吾人の衣食の料の相對的價值が上昇もしなければ下降もしないといふ主張に立ち還つて、物價統計を参照して見よう。食料品の一例として砂糖を採つて見る。砂糖の卸相場は近年一封度五仙より二十五仙に上昇し約四〇〇%の増加を示した。然るに貨幣價值變動の指數である一般物價水準は一五〇%しか上昇して居ない。

被服品の一例としては鞣皮を採つて見る。一九一九年に於ては或品等の皮の最高價格は翌年の最低價格よりも高きこと四〇〇%であつた。然るに物價水準—換言すれば金の交換價值は—四〇%以上は變化しなかつた。明かに金よりも其の價值の變動が甚しかつたのである。

尙又小麥、棉花及玉蜀黍などの交換價值も、長期でも短期でも、一定不易のものではない。紐育に於ける棉花の相場は、一八七〇年と一九〇〇年との間に一封度五仙から一封度二七仙に變化した。市俄古に於ける小麥の相場は一九〇〇年より一九〇九年に至る間に「ブッシュェル」六一仙より一六〇仙に變化した。また玉蜀黍の相場は三〇仙より八八仙に變化した。

英國に於ては、四十五種の商品に關するソーエルベック氏指數によれば、基準たる一八六七—七七年と一九〇七年との間に於ては僅かに八種—即ち、砂糖、茶、銅、錫、黃麻、皮革、石油、藍—だけが其の交換價值に於て英國産小麥よりも餘計に動搖したのみであつた。一九〇七年に於て基準の年に於けると殆ど同一の購買力を有した唯一の商品は硝酸曹達であるが、さりとて吾人の知る限りでは、未だ硝酸曹達を價值の標準に採用せんことを主張した人は無いやうである。事實、金の價值は屢々若干の農産

品の價值と同一方向に動き、又屢々反對の方向に動く。農産品の相對的價值——即ち他の品物を購買する力——は一定不易ではないのである。

米國に於ける生産の一箇年平均増加率は長年の間約四%であつたらしい。若し流通貨幣の量が同一の割合で増加したならば、弗貨の購買力はヨリ一層安定であつたと思はれる。然るにエディソン氏は何等斯かる提案を出して居ない。之に反し氏は貨幣の發行を増加の割合にでなしに全生産額に、量にでなしに過去の評價額に、總ての品目にでなしに少數の品目に基かせようとする。さて、或農産品又は或一團の農産品の一箇年の生産額が總ての財貨の一箇年の産額と直接同一に變化するであらうことは之を保證する由がない。反對に吾人は、小麥、棉花、煙草などの收穫高の異動は主として若干の事情殊に害蟲及天候等に支配されるものであり、而も是等の事情は他の財貨の生産には直接大した影響を與へるものでないことを知つて居る。従つて農産品の量は最員目に見ても全生産額の確實な指數だと言ふことは出來ない。而して總ての財貨は全製品でも、原料品でも、製造品でも農産品でも、輸入品でも内國品でも、奢侈品でも基礎的必需品でも、すべて交換の媒介具を要するものである以上、貨幣の必需量の變化を測定するには少數生産品の量の變化よりも全生産品の

量の變化の方が一層適當であることは火を賭るよりも明瞭で疑ふべくもない。

併し、それは兎も角、貨幣必要量の變化を一層よく表示するものは取引量の變化である。若しエディソン氏が、流通貨幣總量は總ての取引の一箇年全増加額に應じて増加すべきだと提案したならば、氏の主張は其の理論だけに於ては少くとも貨幣を安定ならしむる底のものであらう。然る時は氏は、之を根本として貨幣の量を調節すべき實際的方法を發見すべき、今日未解決の問題に面接することになる。全然取引量の變化のみを標準として貨幣量を變化せしめ、従て稍々完全な貨幣制度に到達することは不可能の事ではあるまい。大抵の改革論者は貨幣の金本位は斯る計畫と背馳するものだと主張して居るが、是れは誤解である。そんなことはない。

併し金本位そのものは果して安定な物價水準を確保するものであらうか。茲に又吾人は否と答へざるを得ない。金本位は夫れ自體では安定な物價水準を確保するものでも又妨げるものでもない。併しそれは通貨膨脹に對する抑制として總ての大國家が試みて最も有效なりしものである。貨幣購買力の過大な動搖を抑制せん爲めに貨幣の金本位を廢止せんと企つるものは、無効と言はんよりも一層惡しき方法によつて極めて望ましき目的を成就せんとするものである。言ふまでもなく

（其の證據は世界のあらゆる市場に於て日毎に見られる）安定な貨幣に最も近づき得た國家は金本位を固執した國家である。而して金本位より遠ざかることの最も甚しかつた國家——それは麻を有ち、冠を有ち、而して留を有つのだ。

此のエディンソン計畫は、貨幣價值を安定せんことを目的としたものであるに、其の結果は正反對のものであらう。物價水準の安定は主として市場に存する財貨の量と財貨に對して提出される貨幣の量との間の釣合により決定されるものである。現在の我貨幣制度が如何に此の釣合を維持する上に不備なるにせよ、エディンソン案に至つては殊更に此の釣合を覆さんとするものなることを見通すことは出來ぬ。此の計畫に従へば、例へば農業者が政府に對して二千「ブッシェル」の小麥を提供したとすれば、政府は此の農業者に對し千弗の新貨幣を與へるのである。農業者が此の小麥を賣却せんと欲する場合には、彼は此の借入を償還し、政府は此の貨幣を鎖却するのである。故に貨幣の量は財貨が貯藏された時にのみ増加し、是等財貨が市場に出るや否や減少することになる。換言すれば貨幣の相手となるべき財貨の無くなつたときに貨幣が流通し始め、財貨の相手となるべき貨幣の無くなつたときに財貨の流通が始まるのである。財貨の供給が絶えた時に弗貨の需要が起り、弗貨の需要

が杜られた時に財貨の供給が行はれる。斯の如くんば物價水準は安定するどころか、却て亂れる外はない。

### 五

だが、假令へ物品本位案がヨリ安全な通貨を與へるものでないとしても、尠くとも本案によつて農業者は彼の生産品に對し今日借入れ得るより以上の資金を借入れることが出来るであらうか。まア吟味してみよう。エディンソン氏の主張によれば本計畫に基き農業者は彼の生産品に對し銀行より今日借入れて居る額以上を借入れ得るといふのであるが、此點に於て氏は二つの矛盾に陥つて居る。それは、銀行が今日堅實な貸付を拒絶するのか、又は政府は此の計畫に基き不健全な貸付を行ふに至るのかといふことである。けれども、エディンソン氏にしてもフォード氏にしても今日銀行が堅實な貸付を拒否するものだと眞面目に主張する譯には行かない。堅實な貸付は銀行業の利益の源泉であり、エディンソン氏にしてもフォード氏にしても銀行業が利益を目的に行はれて居るものなることは否定し得ないであらう。従つて此の計畫によれば、唯政府が不健全な貸付を敢てする場合にのみ農業者にヨリ大なる貸付を爲し得るのだといふことになる。果して斯の如くんば、支拂不能な借用

者が利するところは爾餘の國民に依つて支拂はれることになり、是れはどうしても公平な處理とは言はれない。

けれども農業家は彼の生産品の過去二十五年間の平均價額の半分以上を借入れることを得ずとあるより見れば、政府が多大の危険を敢て引受けるものは考へられない。併し一八九六年以降物價は著しく昂騰して居るから、農業家は大抵の生産品に對し其の現在價額の半分より遙かに以下を借入れ得るに過ぎぬだらう。されば其の額は農業家が總ての彼の等級別された生産品に依り銀行より直接借入れ得べき額よりも遙に少額であらう。而して等級別され得ない總ての生産品に對しては吾人は政府の貸付を得ることは出来ぬことと思ふ。何となれば此の場合には二十五箇年間の價格の平均を決定する方法は無いからである。

併し又此の計畫によれば、農業家は其の抵當證券に依り政府から規定の借入を行つた後、其の衡平證券を銀行へ提出して追加借入の保證とすることが出来る。が衡平證券は事實上は第二抵當證券であつて銀行は第一抵當證券ほど之を喜ばない。例へばスポカーンの「オールドナショナル」銀行がウオラウオラの一農業家に「千ブツツシエル」の小麥の倉庫證券を擔保に八百弗を貸付けようとしたとする。然るに農

業家は此の小麥を聯邦倉庫に預け入れて政府より五百弗を受取つたとする。此の場合に銀行は此の衡平證券に對して三百弗を貸付けようとはしないだらう。銀行の保護と其の活動の自由とは、此の農業家が全借入を銀行に依頼した場合の方が一層大なるものであらう。何となれば此の場合には、銀行は小麥を貯藏より引出す爲めに五百弗を支拂ふの必要なく、其の擔保を賣却することが出来るからである。此の故に概して言へば、農業家は今日其の均一農産品に對してエディンソン案に於てよりもヨリ多くの資金を銀行より借入れることを得る。銀行が供給しないのは長期貸付である、エディンソン計畫とても之を供給するものではないのである。

此の計畫は農業家に對してすら公平なものではない。これには不當な差別的待遇がある。事實擔保物件の貸付價値が將來何程となるかを前以て決定する正當な方法は何處にもないのである。然るにエディンソン計畫は總ての生産品の貸付價値を絶對的に、一樣に且任意に決定しようとする。これは各種商品市場の相對的見込を無視するものである。斯の如き方法が正當な貸付評價を爲し得るはホンの偶然の事にすぎない。過去二十五年間の平均價格の五〇%といふのは、或る物品に對しては高きに過ぎるし、又大抵の物品に對しては低きに失するものである。例へば或

種類の煙草に就て見ても其の需要が増大し且其の供給量が減少した爲めに其の市場価格は過去の平均の十倍に昇ることもある。又は棉花の代用品が発見された爲めに棉花の相場は過去数年の平均以下に降ることもあらう。斯る細かい點にまでエディソン計畫は立ち入つて居ない。

銀行の一般的慣例は、常に農業家に對してヨリ公平であるのみならず、又ヨリ健全なる方法である。凡そ物品の貸付價值を過去の年に於ける平均價格に基かせることは理由のないことである。健全な銀行業は、將來を豫測する銀行は、他の理由は措いても先づ其の預金者を保護する上から、何よりも其の資金を回収する見込を考慮しなければならぬ。而して農業家が其の生産品を賣却して借入資金を償還する見込は全く將來の價格により決定されるものであつて決して過去の相場によつて決定されるものではない。昨年賣行が盛んであつたからとて、それは今年の利益には關係しないのである。

## 六

吾人は未だエディソン計畫が農産品の投機を抑制するといふ主張に就ては言及するところがなかつた。而して事實エディソン計畫には投機を無くすべき作用は

ないのであるから、是れに就ては多く語る必要はない。農業家が其の生産品を貯藏して政府より資金を借入れた後と雖も彼は尙其の生産品を即座に投機師に賣却することが出来る。農業家は彼の今日有するものを賣却すべきあらゆる誘引手段を有し、投機師は購入を行ふべきあらゆる誘引手段を有するのである。

由是觀之、明かにエディソン計畫は金本位貨幣以上に健全なる貨幣を供給するものでもなく、價值の動搖のヨリ少い貨幣を供給するものでもなく、農業家をして現今よりもヨリ多額の資金を借入れしむるものでもなく、農業を銀行制度より分離せしむるものでもなく、又農産品の投機を絶滅するものでもないのである。

併し、未だ考察しなかつた主張が一つ残つて居る。即ち本案によれば農業家は無利子で資金の借入れを爲し得る。是れは有名な主張だ。エディソン計畫によれば若干の農業者は無料で資金の使用が出来る。斯くて彼等は尠くとも初の内は他の總ての生産者階級に比して有利な地位に立つことになる。而して自己の生産品が貯藏に引受けられなかつた農業者は後者に屬するのである。

が併し何故に政府が此の特別な恩典を或一團の生産者にのみ限り與へるのかは明瞭でない。これこそ純粹の階級的立法である。其の理由として擧げられて居る

三  
ところによれば、農業家は吾人に生活の基本的必需品を供給し、農地の産物なくしては吾人は生活して行かれないのださうである。此の説は危険だ。此の論法で行くと吾人は石炭及び石油の生産者にも特別な恩典を與へなければならぬ。燃料は基礎的必需品ではないか。此の論法で行くと吾人は製服業者に對しても何とか特別な利益を考へてやらなければならぬ。棉花や羊毛の柵は衣服ではない。而も吾人は衣服なしには生存し得ないのだ。

成程農業家は世人に食を給し衣を與へる。ところで一方農具や肥料を供給したり、農産物を運搬して之を消費者の手に達せしめたりする人々なくして果して農業が營まれるだらうか。『農業家は他の労働者が農業家に倚頼せざるべからざる如く、他の労働者に倚頼せざるべからざるものなり』などいふ文句は、經濟原論中の一番分り切つた、一番つまらない個處である。基本的必需品説は到底吾人を捉へることは出来ない。

農業家援助に就ては是れ丈にする。併しフォード・エディソンの見地よりすれば此の物品本位貨幣計畫は、農業家援助といふこと以上に重要な特徴を有するものである。即ち本案は總ての利子といふものを廢止する第一歩と考へられて居る。而

して利子は「デアボーン・インデペンデント」誌によれば『往古の暴君すらも無暗には課さなかつた所の租税である。現實の近代生活に於ては利子は、寄生蟲が依て以て總ての生産に課税する手段であり、貨幣がそが對抗し能はざる人間、原料、及び管理權を支配するに至る方法である』。エディソン氏はフォード氏の水力電氣本位案に關する會見談を發表し、其中で、政府は金を借入れる代りに紙幣を印刷したならば莫大なる利子の支拂を免れるものなる事を力説した。『フォード氏も』とエディソン氏は曰ふ、合衆國國民が自己の金を三千萬弗借入れて六千六百萬弗——利子を加へた額——を支拂はねばならぬとは馬鹿らしい事だと考へて居る。私も亦同感である。シャヴエル一杯の土を掘りかへすことも、一封度の原料品を供給することもしない連中が、原料品を供給し仕事をすする人達より多くの金を合衆國から取り立て、居る。これは利子に關する恐るべき事實である。』

だが併し實際に於て貨幣の使用料を支拂ふことは他のもの、使用料を支拂ふことよりも一層恐るべき弊害を伴ふものであらうか。例へば茲に一農家あり刈取機械の必要に迫られて居るが之を購入すべき資金がなかつたとする。此の場合彼は隣人ブラウンの機械を借用することも、資金を借入れて機械を購入することも出来



る。機械は彼の隣人の資本財貨である。貨幣は資本財貨に對する請求權である。農業家は機械の使用料として何かの方法により支拂を行ふことが正當だと考へるだらう。然らば何故に彼は貨幣を借用して其使用料を拂はないでよいのか。貨幣は市場に於ては同一機械に對する有効な請求權として尊重されて居るものではないか。

さて今吾人は農業家が機械を極めて有効に使用して一千弗を儲けたと假定する。此の儲金を以て彼は農地を購入することが出來之を隣人ブラウンに貸與することが出來る。隣人ブラウンは當然地代を支拂はうとするだらう。然し彼は農地を購入する代りに隣人が農地購入に使用する爲めに、之を隣人に貸與することも出來る。此の場合隣人ブラウンは貨幣に對して使用料を支拂はうとするだらう。是等の事柄は總て明々白々である。取引が此の如く簡單なものである場合には貨幣の使用に對して課料することは、貨幣が購求するところの物品の使用に課料すること、同じく極めて正當なことである。又人々が其の貨幣に對して利子を得られない場合には決して之を貸付ようとしないうことと同じく明白である。彼等は之を所得を生む財産に變へて仕舞ふであらう。

併し若し此の農業家が農地を購入することを欲せず、又隣人ブラウンが資金を借入れることを欲しないとすればどうか。此の場合には農業家は彼の一千弗を銀行に預け入れ、銀行は其の使用料として利子を支拂ふ。が銀行は、此の貨幣を有利に使用し得る場合にのみ利子を支拂ふことが出來るのである。今此の銀行がノーン州のポートランド市が高等學校校舍を要し、之を建築する爲めに資金を借入れようとして居ることを知つたとする。此の資金を調達する爲めに同市は債券を發行した。此の債券の各々は特定の期日に一千弗を支拂ひそれ迄の間一定の割合にて利子を支拂ふことを約束したものである。銀行は此の債券を一枚購入する。斯くて農業家はポートランド市に學校校舍を建築せしむるの事業に參與したものであり、從つて彼の貨幣の使用に對しては、是れが隣人ブラウンに直接乃至間接に貸與された場合と同じく、利子を要求する權利を有するに至る。

利子を廢止せんとする希望は、一つには、銀行が出來る限り多くの金を儲けようとする以外に何の目的も無しに勝手に利率を決定するといふ一般的思想に基いて居る。此の思想は慥に間違つて居ると思ふ。若し此の説にして正しいならば、何故に銀行は更にヨリ大なる利益を得むが爲めに更に利率を引上げないのか解らな

くなる。併し上にも述べた如く、若し吾人にして需要供給の力は金の價格には何の關係も無いものだと誤つた前提から出發したならば、如何なる理論とても尤もらしく聞えないほど無鐵砲なものではない。利子は、吾人が金の使用に對して支拂ふ代價であり、又—金は自由に貨幣に兌換されるものなるが故に—吾人が貨幣の使用に對して支拂ふ代價である。若し吾人にして此の代價は結局は需要及び供給によつて決定されるものなることを信せんとせざる時は、吾人は、利率はウォール街又は金融界の首腦者、又は共和黨、又は聯邦準備局其他吾人が偶々偏見を抱いて居る所のものによつて決定されるものだといふ結論に飛び込むのである。

言ふ迄もなく、貨幣の相場は主として提供された總價額と責任ある借用者の全需額との間の關係により決するものである。換言すれば、利率はゴムタイヤの相場と同じく需要供給の力によつて決定されるものである。例へば一九一九年に於ける如く、物價と賃銀とが上昇し、財貨購買の一般的熱望が増大し、事業が擴張され新企業が勃興する場合には借用者の貨幣需要が著しく増加する。斯くて利率は昇る。反對に一九二一年に於ける如く物價及び賃銀が下落し、舊貸付は償却され新貸付の需要は減少する場合には利率は下降するのである。要するに利率は用立て得べき

供給に比しての資金の需要の度により決まるのである。

『用に立つ供給！』これぞ正に、通貨膨脹論者の説に従へば、難物である。フォード氏は曰く、『供給は不十分である。富は、之を動かす貨幣よりも多く存する』氏の週刊誌の中で、氏は『繁榮の流れに對する金の堤』を鮮やかに描寫して居る。四方八方から政府に向つて、印刷機の廻轉を速め、以て『貨幣獨占』を粉碎し利子を引下げ、總ての人に貨幣の獲得をモツと容易ならしめよとの要求が殺到する。が併し、通貨を膨脹せしめることは國民に對してヨリ多くの通貨單位を與へるものではあるが、而も國民は是れが爲め一向其の購買力を増すものでもなく、又是れによつて利率が下降するものでもない。獨逸に於ける一九二二年中の紙幣發行額と利率とは、同國の歴史あつて以來の最大且最高のものであつた。米國に於ては、世界戦争に續いて起つた産業界の大活況期に於ては貨幣量が膨脹したのに利率が上昇した。其後物價が下落して貨幣量が收縮すると利率は下落した。貨幣は、他の種の富とは異り、單に全體の供給が増加したのみでは手に入れることが容易になるものではない。反對に、貨幣の供給を増加せしめると普通に貨幣の需要が増加する、而して利率は供給に依て決するものでなくて需要と供給との間の關係により決まるものである。

凡そ如何なる計畫にしても一の労働者團に資金の自由貸與を行はんが爲めに他の方面に於て同じく産業に従事する労働者を窘しめるやうな計畫は正しいものと言ふことは出来ぬ。然るに吾人の信するところによれば、エディソン計畫は政府にも及び他の何人にも殆ど何の負擔をもかけずして農業家に貨幣を供給するものであるといふ。政府の爲すべきことは貨幣を印刷すること丈である。是れ以上簡單なことが世にあらうか。此處では吾人は、全問題中の最も危険な謬見に到着する。余は之を危険といふ。何となれば、世人はみな、無より有を得んことを欲し、又人間は、最も苦しかつた經驗よりしても、及び歐洲現下の恐ろしき經驗よりしても、無より有を生ずる貨幣制度を案出することの不可能なることを悟り得ないからである。

此處に全問題の眼目がある。貨幣は生産された丈のものを購求するが、他の如何なる鍊金術を以てしても、立法を以てしても財政策を以てしても、それ以上微塵たりとも多くを購ふことは出来ぬ。露國人は貨幣を二十五萬七千倍に増加したが、彼等は此の莫大な貨幣を以てしても以前程の購求を行ふことすらも出来ぬ。吾人が貨幣を増刷しても貨幣が購ふべき財貨は増加しない。鋤や帽子や馬鈴薯は、微塵の増

加もしないのである。全體の國富は印刷機械が運轉されなかつた當時と全く同一であつて、唯若干卷の紙が印章を押され分切されて證券となつた丈のことである。従つて各單位の貨幣が購求し得る財貨の量は減少する。新印刷貨幣を手にした若干の者は以前よりも多くの財貨を購入し得る。他の總ての者は、其の貨幣の購買力が下落したので以前より少い財貨しか購入することは出来ない。鋤や帽子や馬鈴薯は増加して居ないのだから、若し或一部の人がヨリ多くを獲れば他の人々がヨリ少ししか獲ることは出来なくなる。従つて若し政府が農業家に無料で貸付ける爲めに貨幣を印刷し、是によつて實際上貨幣流通額を増加せしめ乍ら貨幣の購ふべき財貨を一向増加せしめないならば、農業家は貨幣を使用する爾餘の國民の負擔によつて忽ち利を博するであらう。政府が現存の収入以上の支出を行はうとする場合には通貨を膨脹せしむるか、租税を増加せしむるかしなければ追加金を手に入れることは出来ない。何れの方法によつても國民は經濟上の損失を免れることは出来ぬ。

エディソン計畫に於て通貨膨脹が制限されるのは主として、其の不公平なる差別待遇により、大抵の財貨及び勞役生産者團の参加を拒否するからである。若し公平

な立場から、及び政治上の立場から、總ての團體の参加を許したならば、通貨膨脹の程度は絶大なものとなるに相違ない。生産の資源より見積る所によれば、米國の總所得は五百億弗以上である。流通貨幣總額は、小切手に使用される銀行預金を加へ二百五十萬弗に近い。従つて每一箇年の生産は、之をエディソン計畫による新發行の基礎として使用するならば、直ちに流通貨幣の量を著しく増加せしめることになる。貨幣供給量が増加すればする程物價は上昇する。物價が上昇すればする程任意の量の財貨の貸付價額は増加する。それは貸付の大きさは價額に基くもので量に基くものでないからである。されば一定の年産額を基礎として發行さるべき新貨幣は一層大となるであらう。従つて本計畫は貨幣の自己消滅を主張して居るが、實際には物價は益々上昇して止む所を知らないであらう。

斯の如き莫大なる紙幣の兌換性を維持することは、米國の金を以てしても尙十分である。故に斯る程度の膨脹は當然金本位の廢棄を惹起し、而して遂にはエディソン計畫に規定された制限をすらも廢棄せざるべからざるに至るであらう。一國の不換紙幣發行が多くなればなる程、其の國は一層多くを要求する。露國は世界中で一番紙幣印刷の盛んな國である。一箇月の發額二百兆留などと聞いても一寸見

當がつかない。而も露國人は『金がなくて取引が出来ない』とコボして居る。金本位の自在なる制肘なく、而も暴虎憑河的膨脹論其他有象無象の膨脹論者が絶えず其の主張を以て議會に迫りつゝある時に於て、一たび米國財界に混亂が生じた場合に、それが遂に露國の二の舞にまで惡化しないか否かは、吾人は之を保證することは出来ぬのである。(終)

終

